

2017/2018 シーズン  
SAJ 公認アルペンユース競技会開催要領 決定版

## 1 概要

1. 大会名称を「ユース競技会」とする。
2. SAJ 公認アルペンユース競技会には、小学校 5 年生から高校 1 年生早生まれの競技者が出場できる。また、年齢と学年により、K1 と K2 に区別される。
3. K1 カテゴリーは小学校 5・6 年生の競技者、K2 カテゴリーは中学生と高校 1 年生早生まれの競技者が出場できる。
4. 競技ルールは、FIS 国際アルペン競技ルールと本要領に基づいて行われる。
5. 競技ルールと競技用具ルールは、K2 カテゴリーは U16、K1 カテゴリーは U14 を適用する。ただし、本要領に定めることを優先する。
6. 競技会公認料は SAJ 規約規程集、各種公認・登録等料金一覧表の通りとする。

## 2 出場資格について

1. SAJ 競技者登録が完了され、大会要項に記載されている出場資格を満たしている競技者。

## 3 種目について

1. スーパー大回転 (SG)、大回転 (GS)、回転 (SL)、コンビ (KB) SL/GS とする。  
コンビは K1 の SL 種目の 1 つとする。
2. SG の方向転換数を 8~12% とする。
3. GS について
  - 1) K2 は 2 本レースとする。K1 は 2 本レースが望ましい。
  - 2) 方向転換数を 13~18% とする。  
(ターニングポイント間 MAX 27m、ディレイドゲートコンビネーションの場合はディレイドゲートから次のターニングポイント間 MAX27m)
4. SL について (K1・K2 共通ルールとする)
  - 1) 方向転換数を 32~38%+/-3 とする。  
(ターニングポイント間 K1・K2:7m~11m、ディレイドゲートコンビネーションのターニングポイント間 K1・K2:12m~15m)
  - 2) 最少 3 箇所、最大 6 箇所のヘアピンと、最少 1 箇所、最大 3 箇所のヴァーティカルコンビネーション (最少 3~最大 4 つのゲートからなる) を設置しなければならない。最少 1 箇所、最大 3 箇所のディレイドゲートコンビネーションを設置しなければならない。

## 4 使用コースについて

1. SAJ 公認コースとする。
2. 各種目の標高差は下記の通りとする。
  - 1) SG : K1 は 250m-400m、K2 は 250m-450m
  - 2) GS : K1 は 140m-300m、K2 は 160m-350m
  - 3) SL : K1/K2 共通 100-160m
  - 4) KB は 120m-200m
3. SG は GS 公認コースでも開催できる (ただし、ルールや安全性を満たしていること)。
4. GS は SL 公認コースでも開催できる (ただし、ルールや安全性を満たしていること)。
5. KB は、GS 公認コースを原則とするが、SL 公認コースでもできる (ただし、ルールや安全性を満たしていること)。

## 5 エントリーについて

1. ブロック内の競技会に出場することを原則とする。ただし、ブロック内の開催競技会が少ない場合、他ブロックの競技会にも参加できる。
2. 他ブロックの大会に出場する場合は、ブロックで出場希望者を集約し、都道府県単位でエントリーすること。また、ブロック内の大会においても、エントリーは各都府県単位とする。このことは、大会開催要項に明記されなければならない。

## 6 スタート数の制限について

1. 中学校3年生・高校1年生早生まれは制限なしとする。
2. 技術系(GS/SL)合計、小学校5・6年生は8レース以内、中学校1・2年生は10レース以内、とする。スタート数が順守されているかの確認は各都道府県で行う。
3. K1、K2共にスピード系(SG)は、制限なしとする。
4. 「SAJポイントレースにおいて公式成績表が発行され、1本目のDNS以外で名前が掲載されている場合」スタートしたものとする。DNQ、DNF、2本目のDNSもスタートとみなされる。レース/ペナルティーポイントが選手に付与される形でレースが成立しない場合は、スタートを切っても、スタート数にカウントされない。レースが天候等により、途中キャンセルされた場合は、スタート数にカウントされない。
5. 項目6-2.に違反した場合は、当該選手の違反したレースでの取得ポイントを無効とする。但し、違反を知りながら参加する等の悪質な違反者に対しては次年度1月31日までSAJ公認大会のエントリーを禁止するとともに、同期間、FISライセンスを発行しない。
6. 国体、全国高校、高校選抜、全国中学、全日本ジュニアスキー選手権(中学生)SGならびに全日本選抜ジュニアスキー選手権(中学生)SG(以下霰石SGと表記)、JOCジュニアオリンピックカップ、予選会(全国高校、全国中学、国体)のスタートはこの制限に含めない。

## 7 スタート順について

1. 17-18各ブロックのユース競技会については、次の通りとする。  
K1: フリードローとする。  
K2: SAJポイントを採用し、上位15名タイまでをドロー、以降はポイント順とし、ノーポイントはドローとする。  
\*但し全国中学は含まない。

## 8 K1・K2 SAJポイントについて

1. 競技者には、SAJポイントをつける。FISルールに基づいてペナルティーポイントを計算し、計算ペナルティーを採用する。一方、規定のミニマムペナルティー値(下表)を下回った場合は、ミニマムペナルティー値をペナルティーポイントとして採用する。

SAJ カテゴリー	Race Level	ミニマムペナルティ	マキシマムペナルティ
SAJ-A (K2) ・ B (K2)	5	50.00	999.00
SAJ-A (K1) ・ B (K1)	6	70.00	999.00

2. 16歳以上のB級大会(B級公認各都道府県選手権大会も含む)と併催する場合、K1、K2は、ユースルールに従ってレースを実施する。K1、K2、16歳以上のブロックでスタートさせることにより、SAJポイントが認められる。

## 9 JOCジュニアオリンピックカップについて

1. 種目は、K1はSGとSLとし、K2はGSとSLとする。
2. 出場資格は次の通りとし、2種目出場とする。  
K2 1) 各都道府県に割り当てられたエントリー数内で、各都道府県で選抜された競技者  
2) 当該シーズンの全国中学校スキー大会各種目30位以内の競技者  
3) 当該シーズンの全国高校スキー大会各種目50位以内で、高校1年生早生まれの競技者  
4) 当該シーズンの霰石SGで10位以内の競技者  
5) 開催地枠として、割り当てられた数+2名  
  
K1 1) 各都道府県に割り当てられたエントリー数内で、各都道府県で選抜された競技者  
2) 17-18本大会において10位以内に入賞した小学校5年生に関しては次年度の本大会において特枠シードを与える。特枠シードを獲得した選手は出場権を得ると共に、該当種目の第1グループに加えて抽選を行う。

- 3) 各種目上位3位以内入賞者(小学6年生)は次年度本大会K2参加資格を与える。
- 4) 開催地枠として、割り当てられた数+5名
3. K2のスタート順は、SAJポイントを採用する。
  - 1) 第1グループは15位タイまでで抽選を行う。
  - 2) 16位以降はポイント順とする。
4. K1のスタート順は、いくつかのグループに振り分けて、グループ内で抽選を行う。スタートランキングは各都道府県が決定する。
5. ここに定めること以外は、大会要項に従う。
6. JOCジュニアオリンピックカップの開催地区と開催シーズンのローテーションは次の通りとする。
  - 1) <東北>2017年と2018年
  - 2) <甲信越>2019年と2020年
  - 3) <北海道>2021年と2022年
  - 4) <東海北陸/南北関東/西日本>2023年と2024年
  - 5) <東北>2025年と2026年
7. 開催にあたっての条件は以下の通りとする。
  - 1) 3月下旬(春休み期間中)で開催し、開催種目を安全に運営できること。
  - 2) 多様なコース設定が可能であり、コース状況が維持できること。
  - 3) 近隣に宿泊施設が十分にあること。交通の利便性が考慮されていること。

## 10 競技用品について

1. 選手が使用する用具は、2017年6月12日SAJホームページ掲載「2017-18シーズンスキー用具に係る国内運用ルールについて」を参照のこと。
2. ヘルメットに関しては、17-18SAJ公認国内大会においては、K1・K2はFISルールに従い義務付けとする。

## 11 大会主催者の責務について

1. この要領に定めること以外は、FISルールに則り、安全に運営しなければならない。
2. 選手の安全を確保するために、全種目で軽量ポール(25-28.9mm)を使用しなければならない。
3. 大会要項競技規則項目にICR等とともに、「SAJ公認アルペンユース競技会開催要領に基づく」を記載すること。またスタート数の制限に関する記述を入れること。  
※スタート数の制限に関する記述の例  
「技術系(GS/SL)合計、小学校5・6年生は8レース以内、中学校1・2年生は10レース以内、とする。中学校3年生・高校1年生早生まれは制限なしとする。」と定められているので、各カテゴリーにおいてスタート数がオーバーすることのないようにすること
4. レース中にけが人が発生した場合は、指定のフォームを使用し、報告しなければならない。なお、報告書の作成はTDの業務である。

## 12 出場資格についての特記事項

1. SAJ公認アルペンB級競技会には、K1およびK2の中学1・2年生の競技者は出場できない。
2. 中学3年生以上の競技者は、SAJ公認アルペンB級競技会ならびに国体少年男子の部に出場できる。その場合、16歳以上の競技用品ルールに従わなければならない。
3. 高校1年生早生まれの競技者は、雫石SGとJOCジュニアオリンピックカップに出場できる。

## 13 2017-18 アルプテンブラ U16 派遣選手選考基準

1. 選考対象 17-18シーズンU16該当年齢(中2遅生まれ、中3、高1早生まれ)
2. 選考基準
  - 1) 16-17シーズン(前年度)JrオリンピックSL/GS共通最上位者 男女各1名
  - 2) 17-18シーズン全国中学SL/GS共通最上位者 男女各1名
  - 3) 17-18シーズンインターハイSL/GS共通10位以内の1年生早生まれの選手で最上位者 男女各1名

- 4) 選考基準 1)、2)、3)について
  - a) 17-18 シーズン U16 該当年齢選手の中で、2 種目共通で最高順位を記録した者とする。
  - b) 優勝者が 2 人でた場合は、2 種目目の上位選手とする。2 種目目も順位を分けた場合は、2 種目目のレースポイントの小さい選手とする。
  - c) 2 人の選手が優勝以外で該当選手の中の最高順位を分けた場合は、その種目のレースポイントの小さい選手とする。
  - d) 選考基準 2)、3) で選抜される選手が、選考基準 1 で選抜されているときは、その選手をそれぞれ選考基準 2)、3) の選考対象外として扱う。
  - e) 選考基準 3) においては、11 位以下からの繰り上げは行わない。
- 5) 選考基準 3) に該当選手がない場合は、選考基準 2) の次席選手を選考する。
- 6) 選考された選手が、遠征派遣を辞退した場合は、それぞれの基準の次席選手を選考する。
3. 上記の方法で男女各 3 名を選考し、エントリーは SAJ ポイント順（選考レースがすべて終了した時点での有効リスト）で、種目毎に行う。
4. 上記選考基準は、変更のない限り、継続する。
5. 2018-19 シーズンよりアルプチンブラ U16 選手に加えて U14 選手の派遣を行う。
  - a) 派遣基準は 18-19 シーズン発表とする。

#### 14 2018-19 ユース管理指定選手選考基準

1. 対象学年：2018-19 シーズン 中学 2 年生、中学 3 年生、高校 1 年生早生まれ
2. 選考基準
  - 1) SAJ ポイント：年代別各種目上位 3 名（※中学 2 年生の早生まれは、年代（14 歳）に含む。）
  - 2) 全国中学：各種目 6 位以内
  - 3) JOC ジュニアオリンピックカップ：各種目 6 位以内
  - 4) 雫石 SG：6 位以内
  - 5) ユース小委員会推薦
    - \* 推薦基準：
      - a) 上記主要大会で、10 位以内 2 回以上など、総合的に選考理由を判断できる選手。
      - b) 17-18 シーズン管理選手で、選考当該シーズンにおいて怪我等により成績を残すことができなかったが、継続的な強化が有効とユース小委員会が判断した選手。
  - 6) 強化委員会・ユース小委員会推薦
    - a) 17-18 シーズンの総合成績により推薦可能と判断できる小学 6 年、中学 1 年の選手。

#### 15 ユースランキング

1. 17-18 シーズンは、2002 年生まれの選手の順位でランキングを作成する。
2. 全国中学、雫石 SG、JOC ジュニアオリンピックカップの順位を点数化し、上位 4 レースの合計点でユースランキングを作成する。
3. 順位点は次の通りとする。
  - 1) 1 位：30 点    2 位：29 点    . . . . 30 位：1 点
  - 2) 同順位の場合は、該当順位の点数を合計し、該当人数で割る。
4. 男子上位 20 位、女子上位 30 位に次年度国内 FIS 大会の出場資格を与える。ただし、確定順位については技術運営ハンドブックを参照すること。
5. その他の次年度国内 FIS の出場資格については、技術運営ハンドブックを参照すること。